

「父へのありがとう感謝」

新田 ミユキ（北海道江別市／40歳 女性）

父さん？今はどんな風となって私を見守ってくれていますか？あの時、私はまだ父への感謝という気持ちが足りず、愛想のない態度をとったことに、後悔しています。あの日父さんが「オマエも気を付けて行けよ。」、私はそれに対して「うん。行ってらっしゃい。」と小声でボソツと言った会話が最後でしたね。

私の仕事は、出張が当たり前前にあり、入社した時から上司から言われてきました。

「この仕事は、親の死に目には会えない。」と思ってください……。当時の私は、軽い気持ちで聞いていましたが、それが現実となり、出張から戻った時、父の姿は白い布に包まれた遺骨箱に変わっていました。ほんのり温かさはあったような気がします。飯の仏壇の前で、呆然とした自分。誰も責められない悔しさ。「父さん、どうして逝ってしまったの？」という悲しみ。「何故？何故？」と何度も自分を責めました。

でも、今私は父さんに感謝しています。ちょっと動けば汗だくになるのも、動物の命を大切にしようことも、一つの事に集中してやり抜くことも、父さんに似たのですから。だから、他の人によく言われます。

「働き者のところも、お父さんに似たのね。」

私は誇りに思っています。父さんの娘で良かった。もし、生まれ変わっても父さんの娘でありたいと思っています。

もつと、もつと、父さんとビールを飲みたかった。話もしたかった。何故なら、あの時の「うん。行ってらっしゃい。」と言った言葉で終わったままだから。でも、私の心の中で、父さんは生きています。

父さん？そこに初代の犬のしげちよはもちろん、コロもいるでしょう？父さんが亡くなった後、コロは十八年という天寿を全うし、旅立ちました。家にある写真のように、緑の芝生で座って日向ぼっこでもしていることでしょう。

今日も風が吹きます。その風が吹く度に、ふと父さんとコロやしげちよの匂いがします。きつと近くに来てくれるのでしょうか。いつまでも私のそばにいてくれて、守ってくれているのだと思っています。

父さんの娘で感謝しています。

ありがとう、父さん。